

環境調査結果のお知らせ

令和8年4月15日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最高で10 cells/mL確認されました。当該プランクトンは、100 cells/mLに達すると二枚貝を毒化させる可能性がありますので、十分注意してください。また、3月9日から3月18日まで赤潮（緑色の着色）を形成していたハプト藻と同一と考えられる植物プランクトンは確認されませんでした。

現時点で、浦ノ内湾におけるハプト藻及び種類が不明の植物プランクトンと漁業被害との因果関係は不明ですが、海水中に有害種が混在していた可能性がありますので、十分注意してください。

調査点 (透明度)	深度 (m)	プランクトン		
		珪藻	アレキサンドリウム 属	ハプト藻
A 中学校前 (-)	0	12,600	0	0
	2	9,400	0	0
	5	3,700	0	0
	10	380	1	0
	B-1	320	1	0
B 光松 (-)	0	9,300	1	0
	2	4,100	0	0
	5	660	0	0
	10	520	0	0
	B-1	100	0	0
C 大鹿 (-)	0	-	2	0
	2	-	0	0
	5	-	0	0
	10	-	0	0
	B-1	-	0	0
D 水試小割前 (-)	0	-	10	0
	2	-	0	0
	5	-	0	0
	B-1	-	0	0

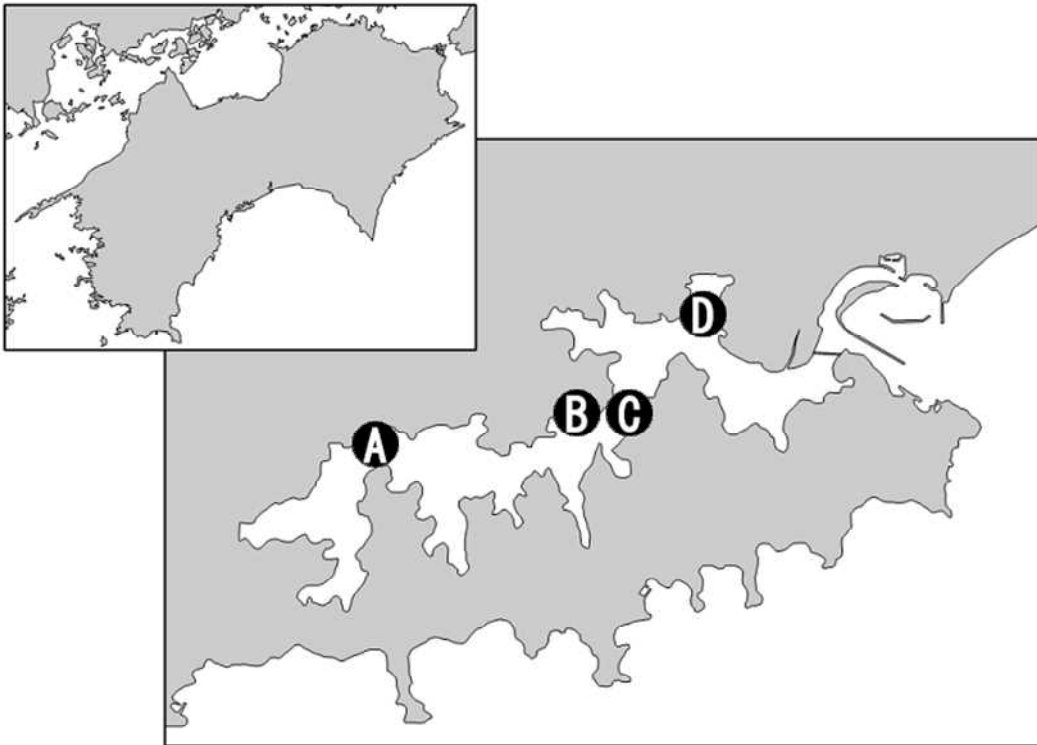
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

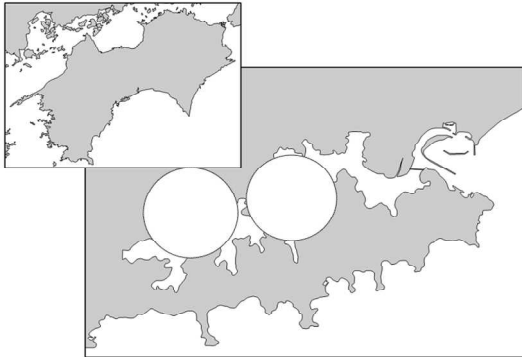
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。

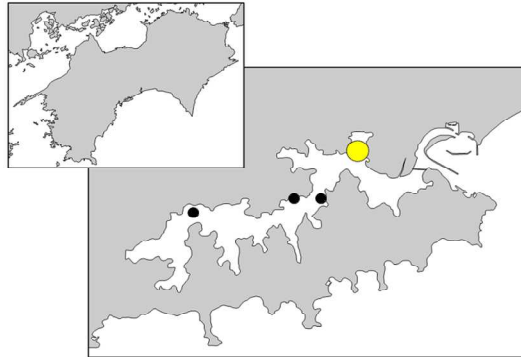


- A: 中学校前
- B: 光松
- C: 大鹿
- D: 水試小割前

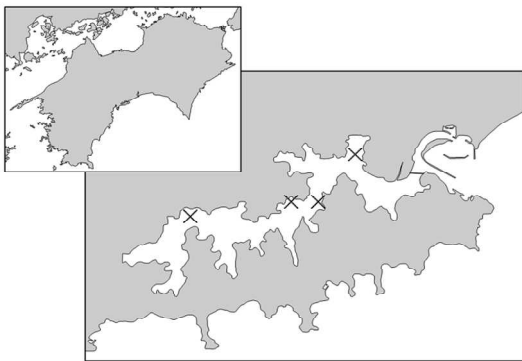
珪藻
最大細胞密度



アレキサンドリウム属
最大細胞密度



ハプト藻
最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

